



2026年3月期 通期 決算説明会資料

2026年5月14日
ホシデン株式会社

Agenda

第1章

1部 2025年度 通期 業績概況

2部 2026年度 業績予想

3部 トピックス

第2章

1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ

2部 主なQ&A



第1章

1部 2025年度 通期 業績概況

2部 2026年度 業績予想

3部 トピックス

第2章

1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ

2部 主なQ&A

2025年度 業績概況

・通期実績：増収増益

売上高	前年通期累計	▶	当期通期累計	差異	アミューズメント +2,086億円 移動体通信 △83億円 輸送機器 +29億円 その他 △25億円
	2,476億円		4,483億円		
営業利益	前年通期累計	▶	当期通期累計	差異	*営業外為替差益 前期： 45百万円 当期： 4,182百万円
	135.7億円		192.4億円		
為替レート	152.56円/USD		150.78円/USD		

ポイント

- ・売上高は、移動体通信向け及びその他市場向けの減少があったものの、アミューズメント向け販売が非常に好調であったこと及び輸送機器向けの増加により、全体では前年度対比約1.8倍の4,483億円となりました。
- ・利益面では、主にアミューズメント向け売上の伸長により、営業利益は41.7%増の192.4億円となりました。また、経常利益は為替差益が約42億円あり、66.8%増の246億円となりました。
- ・当期純利益は過去最高益となり162億円でした。配当性向は30%としておりますので、期末配当金は73円となり、中間配当金25円とあわせて年間配当金は98円を予定しております。

2025年度 通期実績：使用機器別売上高

	2024年度 通期 (百万円) (%)		2025年度				前年同期比	
			上期 (百万円)	下期 (百万円)	通期 (百万円)	(%)	(百万円)	(%)
アミューズ	145,479	58.7	197,162	156,900	354,062	79.0	+208,583	+143.4
移動体通信	54,231	21.9	23,985	21,918	45,903	10.2	▲8,328	▲15.4
輸送機器	30,629	12.4	15,589	17,990	33,579	7.5	+2,950	+9.6
その他	17,232	7.0	8,690	6,016	14,706	3.3	▲2,526	▲14.7
合計	247,571	100.0	245,426	202,824	448,250	100.0	+200,679	+81.1

2025年度 通期実績：使用機器別売上高

アミューズメント
3,541億円

前年同期比： **+2,086億円 (+143.4%)**

→主要顧客の新製品の販売が好調

移動体通信
459億円

前年同期比： **▲83億円 (▲15.4%)**

→主要顧客向けの販売が前年度Q1で非常に好調であったこと、及び25年度に一部の中級機種向けのシェアダウンが影響（26年度は後継機種の受注獲得）

輸送機器
336億円

前年同期比： **+29.5億円 (+9.6%)**

→主に日系自動車メーカー向けの機構部品の販売増加による

その他
147億円

前年同期比： **▲25.3億円 (▲14.7%)**

→ウェアラブル向けの増加があったものの、医療、健康関連向け及びAV機器関連向けの減少による

第1章

1部 2025年度 通期 業績概況

2部 **2026年度 業績予想**

3部 トピックス

第2章

1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ

2部 主なQ&A

2026年度 業績予想

・26年度 上期予想

売上高	25年度 上期実績	▶	26年度 上期予想	差異 △74億円 (△3.0%)	アミューズメント	△110億円
	2,454億円		2,380億円		移動体通信	+30億円
営業利益	25年度 上期実績	▶	26年度 上期予想	差異 +15.1億円 (+18.5%)	25年度上期はQ1での急激な円高による営業利益の押し下げがありましたが、26年度は影響がないものとして予想しております。	
	80.9億円		96.0億円			
為替レート	146.04円/USD		155円/USD			



・26年度 通期予想

売上高	25年度 通期実績	▶	26年度 通期予想	差異 △123億円 (△2.7%)	アミューズメント	△209億円
	4,483億円		4,360億円		移動体通信	+70億円
営業利益	25年度 通期実績	▶	26年度 通期予想	差異 △12.3億円 (△6.4%)	営業利益は前年度比で6.4%減の180億円と見込んでおります。	
	192.3億円		180.0億円			
為替レート	150.78円/USD		155円/USD			

2026年度 業績予想

	2025年度 実績 (百万円) 利益率(%)		2026年度				増減	
			上期予想 (百万円)	下期予想 (百万円)	通期予想 (百万円) 利益率(%)		(百万円)	前年比 (%)
売上高	448,250	-	238,000	198,000	436,000	-	▲12,250	▲2.7
営業利益	19,236	4.3	9,600	8,400	18,000	4.1	▲1,236	▲6.4
経常利益 (営業外為替)	24,644 (+4,182)	5.5	9,100 (▲1,000)	8,900 (-)	18,000 (▲1,000)	4.1	▲6,644	▲27.0
当期純利益	16,206	3.6	6,400	6,100	12,500	2.9	▲3,706	▲22.9

2026年度 業績予想

売上
4,360億円

- ・ 次ページ以降の通期予想：使用機器別売上高参照。

営業利益
180億円

- ・ 25年度はQ1での急激な円高による営業利益の押し下げが約24億円ありましたが、26年度は想定レートを155円としており、営業利益への為替影響がないものとして予想しております。

経常利益
180億円

- ・ 25年度は営業外で受取利息・配当金が約12億円、為替差益が約42億円ありましたが、26年度は営業外で受取利息・配当金約10億円（上期5億円、下期5億円）、為替差損約10億円（上期）を想定しています。

2026年度 業績予想：使用機器別売上高

アミューズメント

- ・ 3,541億円→**3,332億円**（前期比▲5.9%）
→主要顧客向けの売上の減少を想定。

移動体通信

- ・ 459億円→**529億円**（前年同期比+15.2%）
→主要顧客向けの需要増加及びシェア回復を見込む。

輸送機器

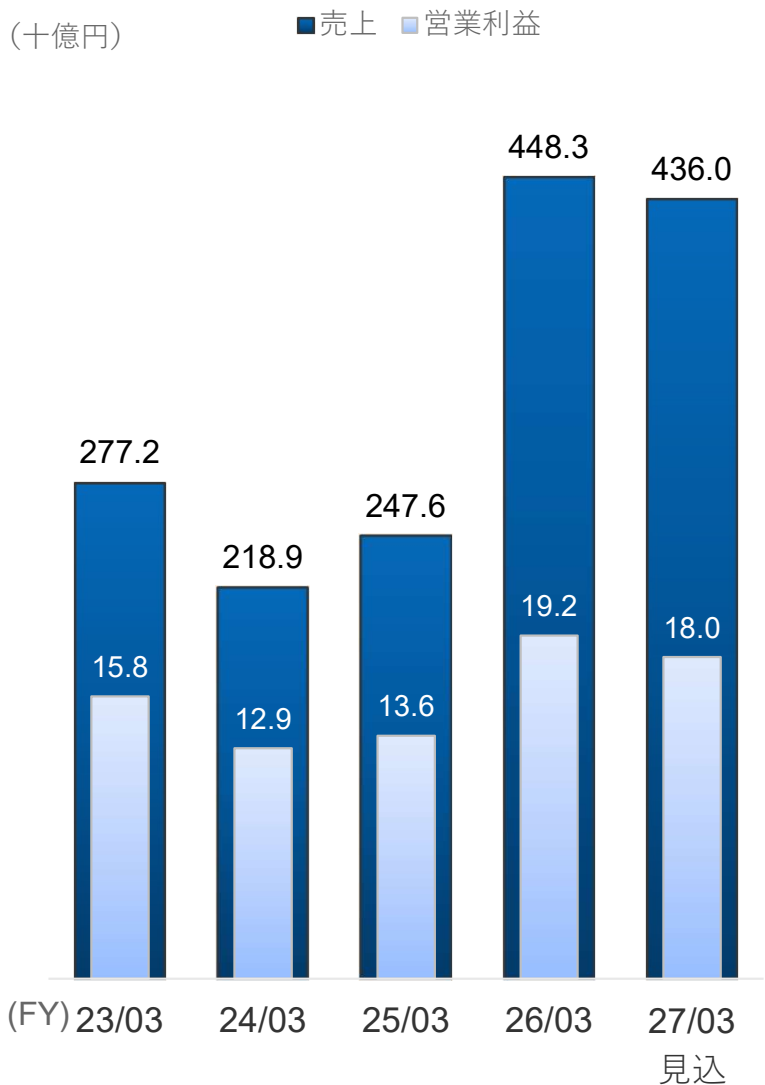
- ・ 336億円→**359億円**（前年同期比+6.9%）
→主に機構部品の伸長を見込む。

その他

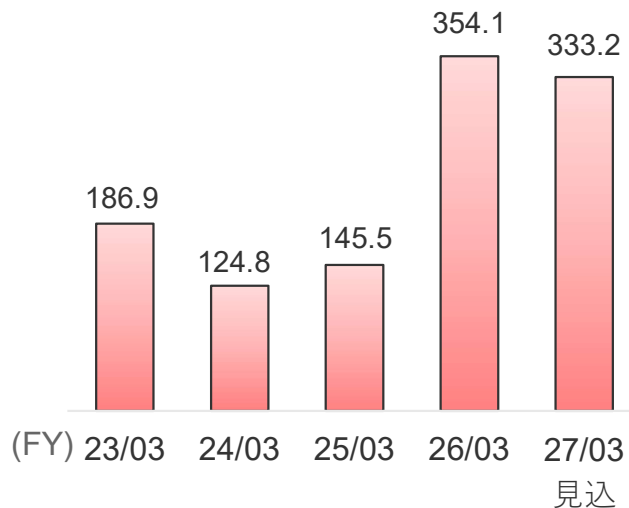
- ・ 147億円→**140億円**（前年同期比▲4.8%）
→医療・健康関連向けの回復を見込むものの、AV機器関連向けが減少見込み。

使用機器別売上高推移

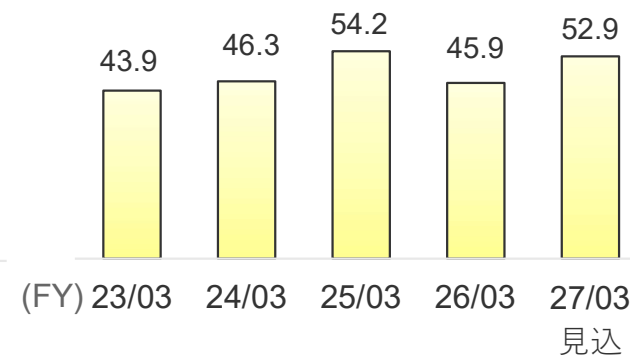
売上高・営業利益



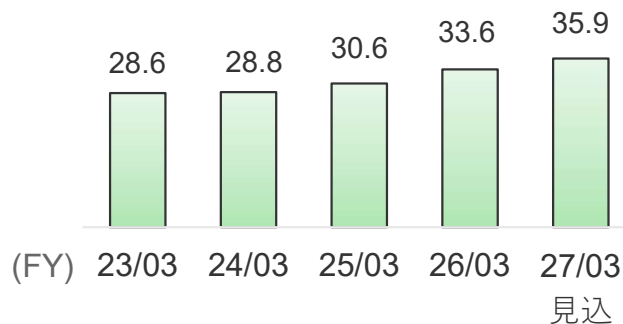
アミューズメント



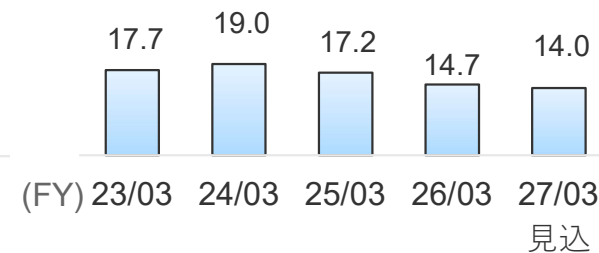
移動体通信



輸送機器

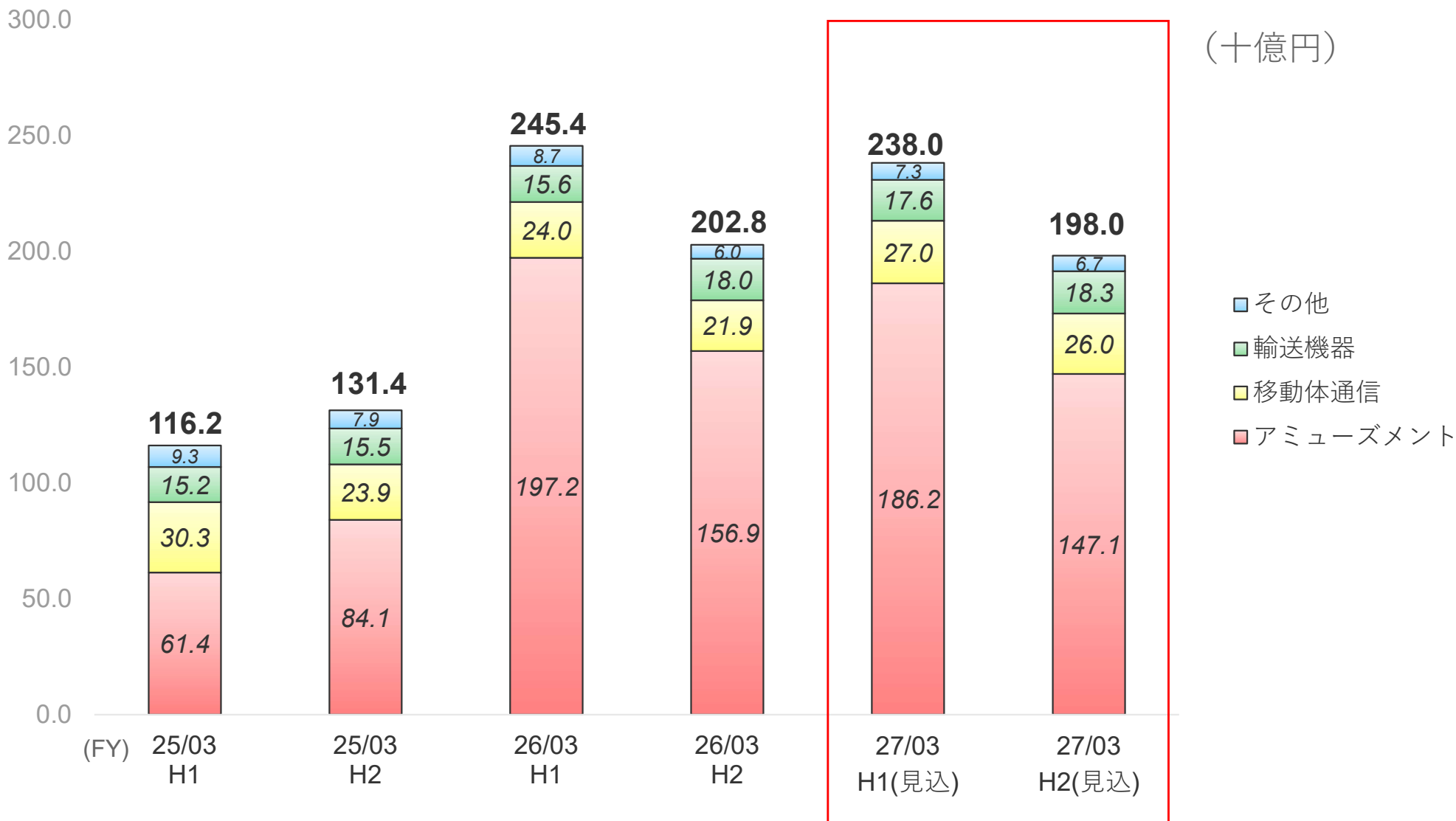


その他



使用機器別売上高（半期毎）

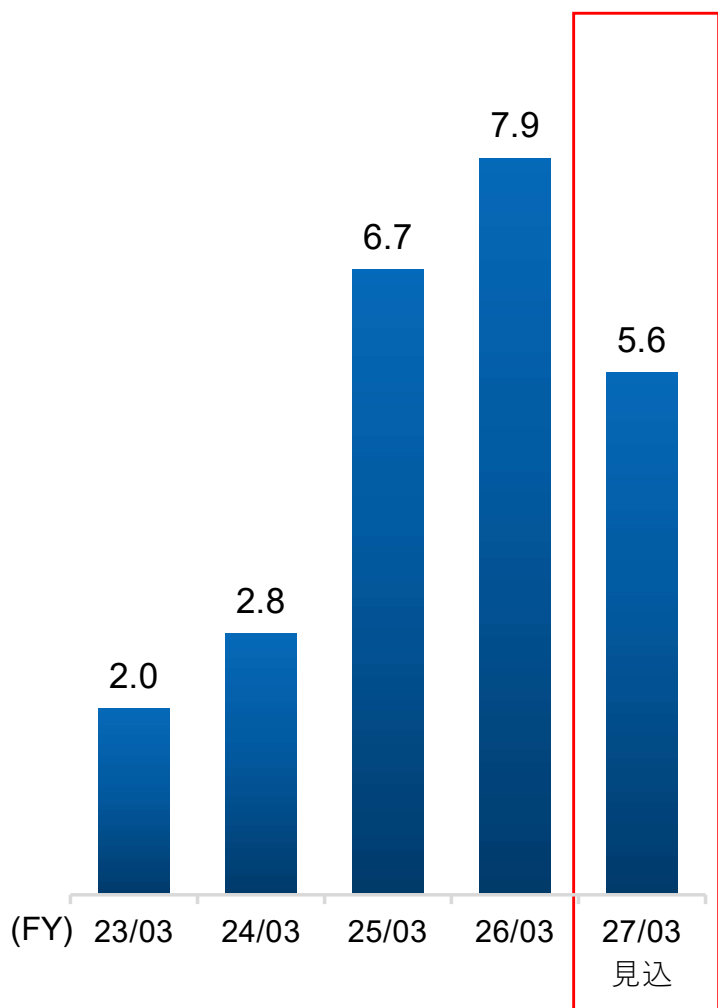
売上高



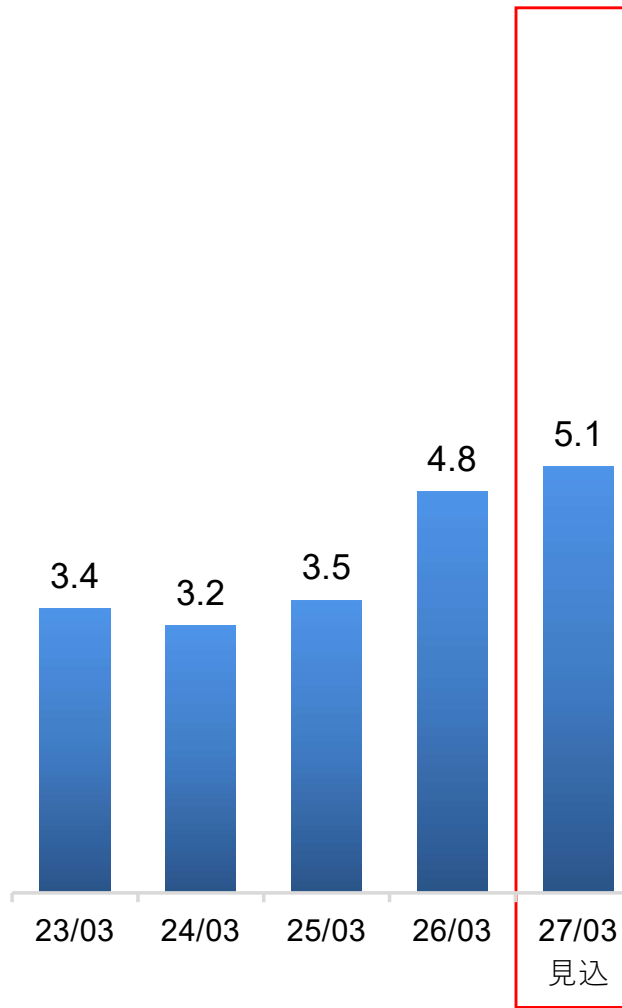
設備投資額・減価償却費・研究開発費 通期見通し

(十億円)

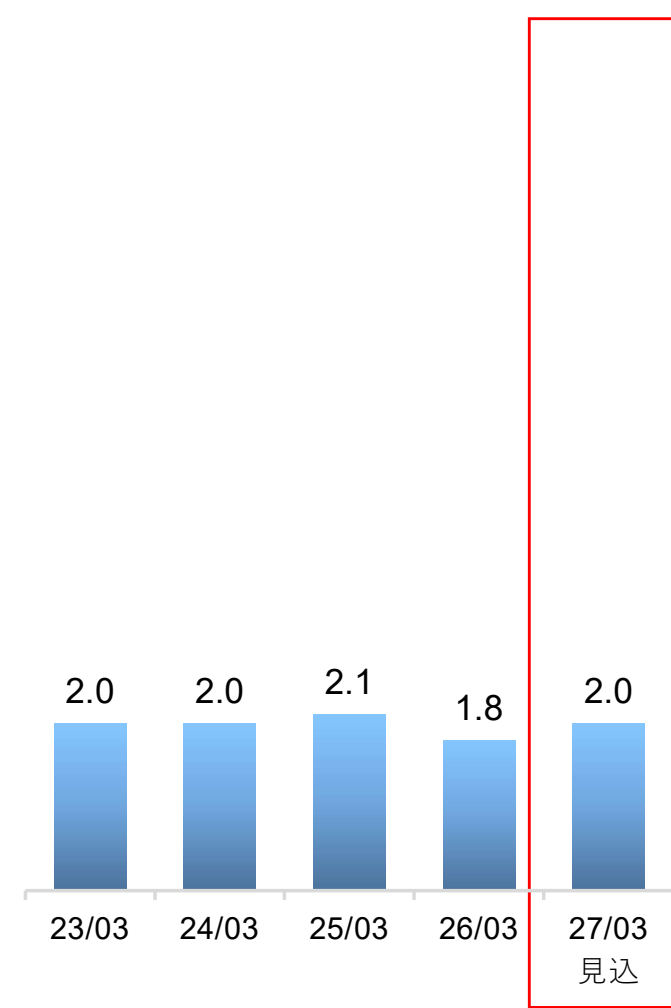
設備投資額



減価償却費

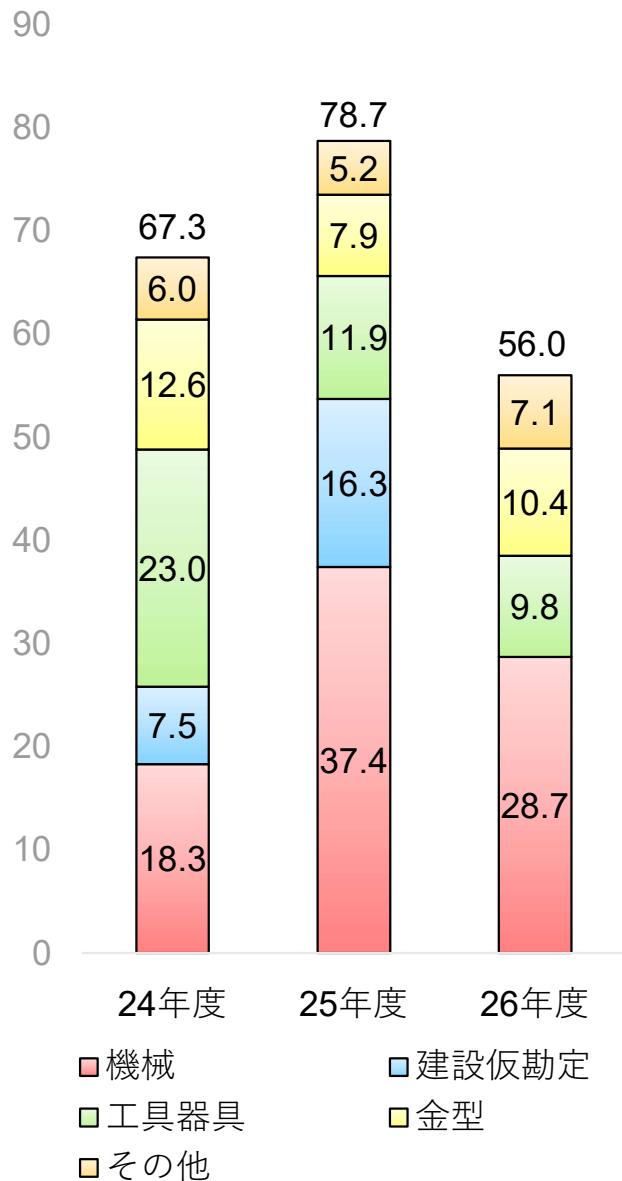


研究開発費



設備投資

(億円)



年度	主な投資目的
24	<ul style="list-style-type: none"> ・主にアミューズメント向け新製品の生産開始に伴う機械、工具器具、金型投資が発生。 ・アミューズメント向けベトナム新棟建設に伴う建設仮勘定が発生。 ・移動体通信向け自動化投資。 ・輸送機器及びその他市場向け。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・主にアミューズメント向け新製品の増産及び内製化に伴う機械、工具器具、金型投資が発生。 ・アミューズメント向けベトナム新棟建設に伴う建設仮勘定が発生。 ・移動体通信向け自動化投資。 ・インド工場立ち上げに伴う建設仮勘定が発生。 ・輸送機器及びその他市場向け。
26	<ul style="list-style-type: none"> ・主にアミューズメント向け新製品の増産及び内製化に伴う機械、工具器具、金型投資の発生を予想。 ・移動体通信向け自動化投資。 ・輸送機器及びその他市場向け。

第1章

1部 2025年度 通期 業績概況

2部 2026年度 業績予想

3部 **トピックス**

第2章

1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ

2部 主なQ&A

通期 最終利益レコード更新

(単位:億円)

	最終利益
2000年度 (レコード)	145
2025年度	162

*2025年度の当期純利益は2000年度のレコードを更新しました。

キャッシュポジション

(十億円)

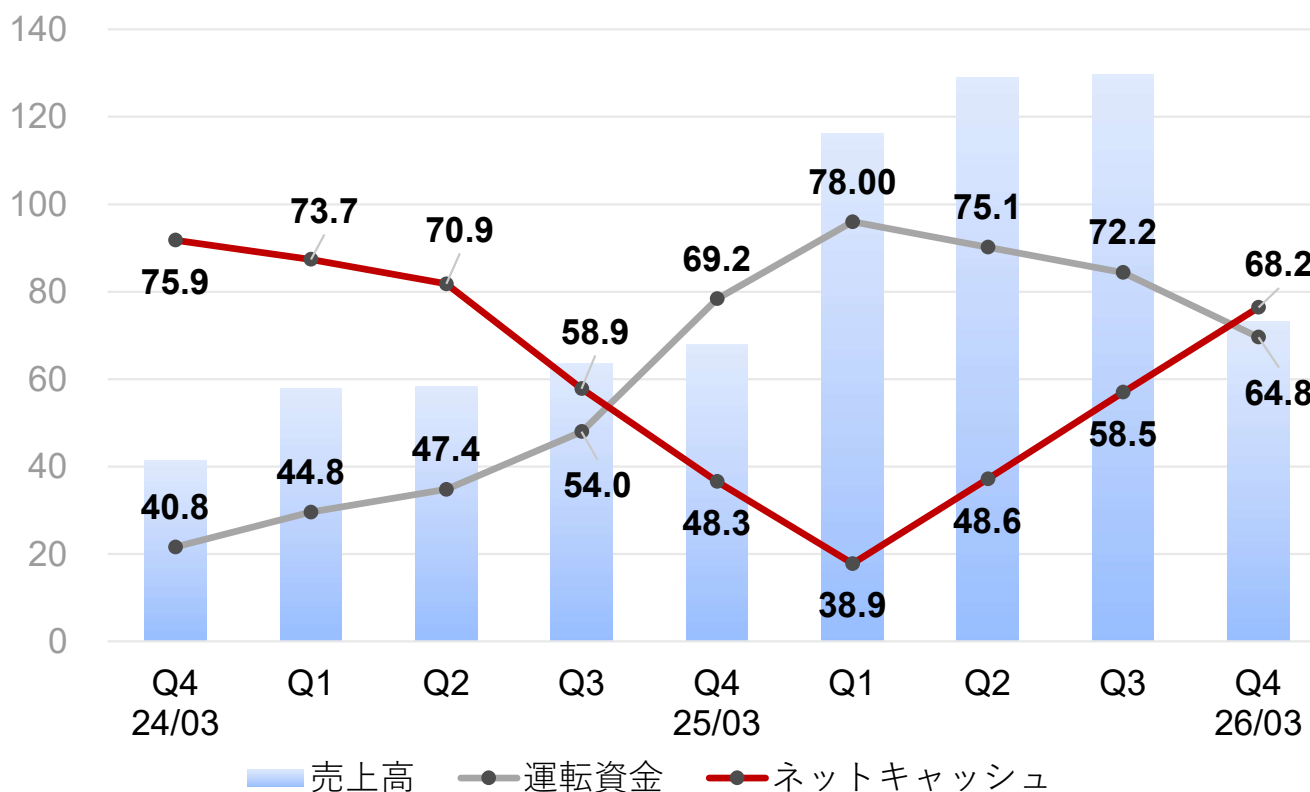
	2023	2024				2025			
	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
売上高	41.4	57.9	58.3	63.6	67.8	116.3	129.1	129.6	73.2
運転資金*	40.8	44.8	47.4	54.0	69.2	78.0	75.1	72.2	64.8
ネットキャッシュ	75.9	73.7	70.9	58.9	48.3	38.9	48.6	58.5	68.2

* (売掛金 + 外注先未収入金 + 在庫) - 買掛金

【説明】

売上（水色棒グラフ）の上昇局面では必要運転資金（灰色折れ線）が増加し、極端にネットキャッシュ（朱色折れ線）は減少します。キャッシュが不足する際には外部からの資金調達は極力避け、グループ内の資金を融通しあうことにより、ROAの悪化を防いでいます。

2026年度上期に季節性による売上増加を想定した場合、Q2にはネットキャッシュが極端に減少すると予想しています。



株主還元 現状と目標

1株当たり
期末配当額

【配当方針】

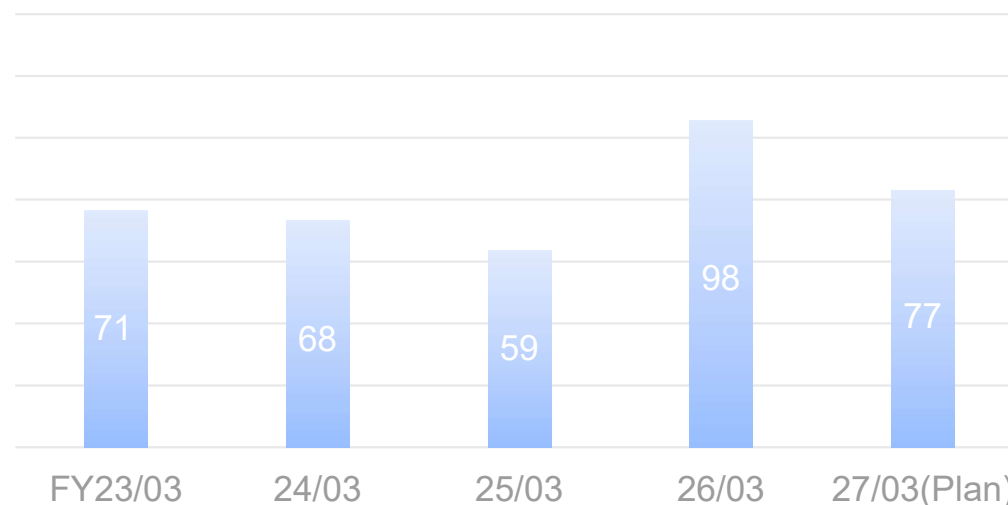
安定配当

・ 配当性向30%を設定

2026年度 **77円/年**
(25年度 98円/年)

単位：円

■ 配当金

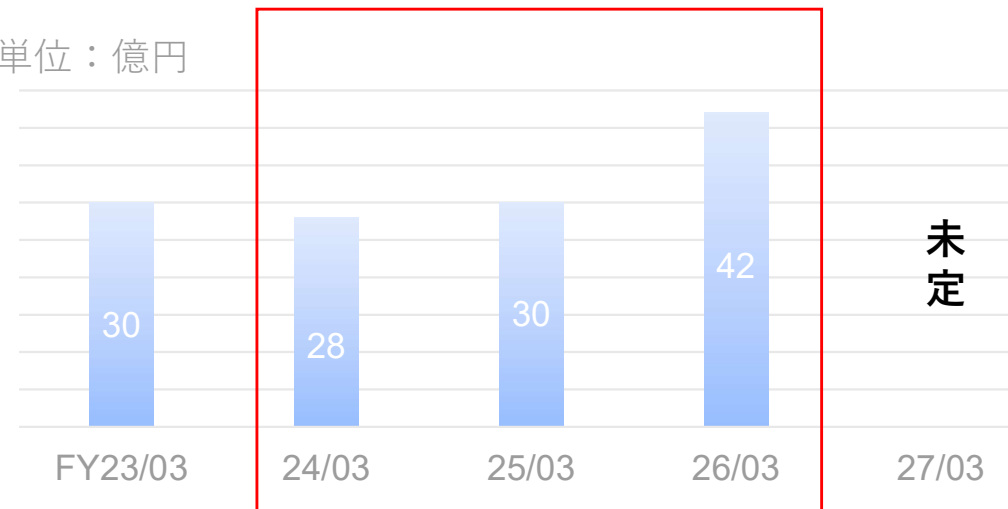


自己株取得

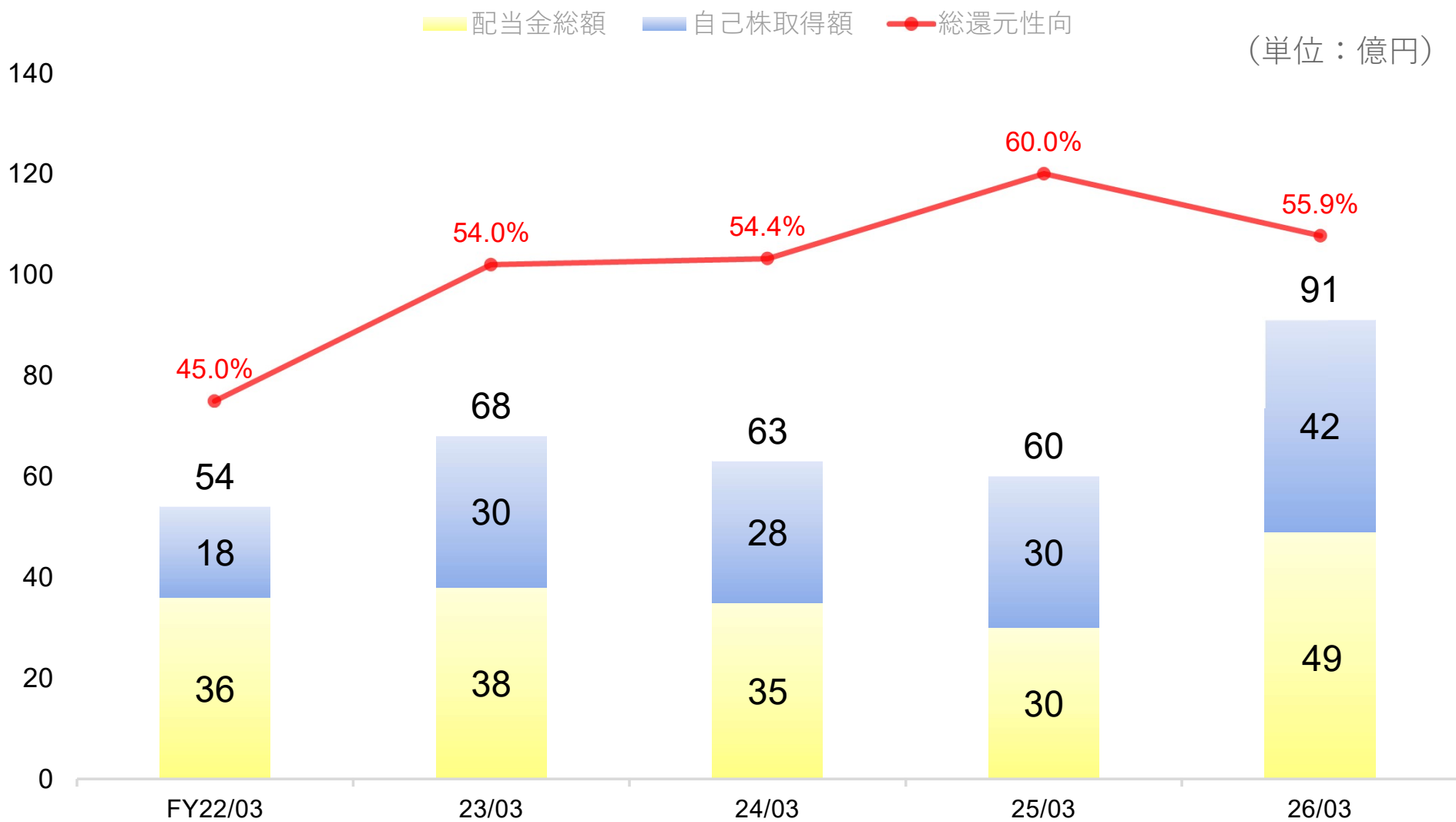
【自己株式取得方針】

・ FY26/03までの3年間で累計100億以上の取得、消却を達成。

単位：億円



株主還元 総還元性向



一株当たり 年間配当額	65円	71円	68円	59円	98円
----------------	-----	-----	-----	-----	-----

ベトナム 新工場

建設目的

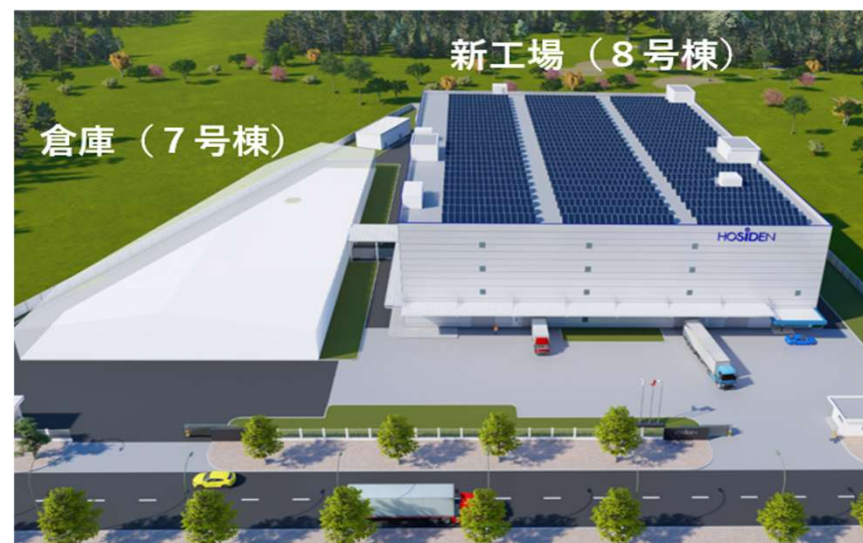
- ・生産能力の増強（過去には6か所あった中国工場が2026年度より2か所）
- ・米国での関税対策も含め中国以外の国・地域での拡張

新工場について

- ・ホシデンベトナム（バクニン省）の8号棟を建設
- ・床面積 24,000㎡（1フロア6,000㎡×4フロア、屋上には太陽光パネルを設置予定）
- ・2026年3月稼働開始（太陽光パネルは2026年夏頃稼働開始予定）



ホシデンベトナム8号棟（バクニン省）



8号棟太陽光パネルイメージ図

インド 新工場

建設目的

- ・インド国内での生産及び、インド国内外への販売拡大

新工場について

- ・当初は車載用マイク及び、空調用リモコンの生産販売を行う予定。
- ・事務棟3階建、生産棟2階建
- ・2025年度着工、2026年度稼働予定



工場イメージ図

太陽光パネル設置の様子

稼働中



ホシデン和歌山(株)



ホシデン九州(株)



ホシデンベソン 第一期 (英国)



ホシデン東京事業所

稼働中



ホシデン本社5号館

2026年夏頃稼働予定



ホシデンベトナム (バクニン省)
(8号棟イメージ図)



ホシデンベトナム (バクニン省)
(1,2,3号棟)

カーボンニュートラルに関する取り組み

CO2削減目標

【SBT水準のCO2排出量削減目標】

- ・ 中間目標：2030年度末までに2023年度基準で総排出量42%削減(Scope1,2)
2030年度末までに2023年度基準で総排出量25%削減(Scope3)

拠点	年間CO2削減量	CO2削減率	稼働時期
ホシデン和歌山(株)	83 ton	38.10%	2022年10月
ホシデン九州(株)	180 ton	15.19%	2023年2月
ホシデンベソン	31 ton	37.57%	2023年4月 (第一期) 2023年9月 (第二期)
ホシデン東京事業所	39 ton	33.07%	2024年9月
ホシデン本社5号館	96 ton	8.22%	2024年12月
ホシデンベトナム(1,2,3号棟)	630 ton	3.69%	2026年夏頃
ホシデンベトナム(8号棟)	700 ton	4.10%	2026年夏頃

※上記とは別に2014年4月よりホシデン本社3号館屋上で太陽光パネル稼働

事務所・生産棟照明のLED化、再生可能エネルギーを使用した電力の購入等にも取組中



- **CDP (Carbon Disclosure Project) スコア**
- CDPとは2000年にイギリスで発足した国際NGO (非政府組織)
- 機関投資家だけでなく個人投資家が投資先企業を選定する基準の一つ

ホシデンのCDPにおける評価の推移

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
CDP 評価 (気候変動)	D-	D-	D	D-	D-	D-	D	C	B	B	B

更なるランクアップを目指します。



第1章

1部 2025年度 通期 業績概況

2部 2026年度 業績予想

3部 トピックス

第2章

1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ

2部 主なQ&A

1. 社長メッセージ

1-1 現在の課題

- ・ 現在課題として挙げられることは、以下の3点。

① 合成樹脂

戦争の影響で調達が不安定。アミューズメントビジネスでは、合成樹脂はお客様が調達するため大きな影響は出ていない。当社で確保する汎用プラスチック、エンジニアリングプラスチックは今も値上げが続いており数量の確保も厳しい。現在も不安定な状態が続く。

② メモリー

値段の高騰が激しく、仕入れも難しい。

③ レアメタル

以前からできるかぎりレアメタルを使わない方針にし、代替品を利用しスペックを落とさないようにしているものの調達が安定していない。

1-2 2027年度の通期予想について

- ・ 当社のフォーキャストについては、上期は見通しがついているが、下期は不透明。1~3月は売上が落ちる予想とした。今回は主要顧客と決算発表日が重なったため、通期予想の立案は難しかった。新工場の設備を活用し、生産量を上げていきたい。

1-3 市場別の概況

1) アミューズメント

新製品ビジネスの出だしは非常に好調で、ベトナム工場はフル生産で稼働していた。ベトナムでは大資本の工場進出が増えてきており、昨今人を増やすことは難しくなっている。賃金の競争が激しいため、人材の定着率が著しく低下した。昨年度は40%ほど賃金が上昇した。かつてのベトナムは低賃金で、人が集まりやすかったが、今では募集しても採用しにくく、人件費も高騰している。生産の質が低下しないように尽力していく。

2) 移動体

2025年度上期の売上は20%ほど減少したが、下期は少し挽回しトータルで15%の減少となった。2026年度は新製品の受注が確定しており回復見込み。引き続き注力する。

3) 車載市場

2025年度はEV問題が長引いたが、2026年度も継続すると予想。しかし、直近では、多くの車メーカーが計画を達成しているという印象。過去3、4年では計画達成の会社はほとんどなかったが、2025年度は改善が見られた。特に日米のメーカーはほとんどが達成に近く、欧州メーカーも企業差はあるものの改善傾向。しかし中国は状況が違う。ホシデンは現在中国メーカーとの取引はない。それは支払いサイトの問題が理由である。また、注文もタイトな設定である場合が多いため、手配に時間がかかり、在庫を持つことを考えれば大きなリスクになりうる。そのため、現在は中国メーカーへの営業活動はせず様子を見ている。

日系のトップメーカー以外は全てTier1として仕事をしている。Tier1のメリットは多くの情報入手できること。当社の輸送機器向けの売上は、昨年度は9%伸び、今年度も7%ほど伸ばす見込みである。チャンスを逃さないようにしていきたい。

4) その他

AV機器関係や医療機器向けの減少が響いた。改善に時間がかかる予想だが、その他市場向けを伸ばすため継続して注力する。

1-4 設備投資に関して

- ・金額は23年度28億円、24年度67億円、25年度79億円と増加している。特に直近で大きく増加しているのは機械関係。ベトナムでは、人不足と人件費の高騰から、自動化投資は今後も積極的に取り組む。
ベトナムの8号棟の建設に当たっては、耐久性も考慮し実績のある日系の建設会社を使った。高機能の生産設備を入れたため充実している工場となった。2026年度は建物への投資は見込んでいないが、引き続き一定程度の水準の投資を見込んでいる。

1-5 新ビジネス

- ・新ビジネスとして、センサー関係に取り組んでいる。一部報道機関にも取り上げられたことがあるが、自然災害等の予兆をすみやかに地方の政府や、国に無線で連絡するようなセンシングを目指している。
センサーについては、他社でも取り組んではいるものの、マーケットが小さく少量多品種のビジネスのため、続けている会社は多くはない。しかし、我々としてはコア技術をしっかり持った中でラインナップを広げて、多くの業種業界に貢献できるビジネスにしていきたい。

1-6 キャッシュについて

- ・キャッシュを持ちすぎだと言われることがあるが、アミューズメントのビジネスはかなりの資金を要する。有償支給が急に増えれば資金も一気に減る。シーズナリティの関係ではクリスマスやブラックフライデーが終わると生産調整に入って、支払が減り回収が進むことで3月末時点では当社の現預金水準は高くなる。一方で、年末商戦に向けては資金が厳しくなる。当社は長い間借入をしたことはないが、注文量によっては今年どうなるかわからない。取引の約9割がUSドル建てであり、USドルで借入をすると高い金利支払が必要となる。



Q & A

第1章

- 1部 2025年度 通期 業績概況
- 2部 2026年度 業績予想
- 3部 トピックス

第2章

- 1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ
- 2部 主なQ&A

■ 主なQ&A

Q-1 アミューズメントの生産は26年Q1から増加するか。

A-1 前期Q4と比較すると確実に増加する。

Q-2 アミューズメントのビジネスは有償支給であるならば、支給品の値上げがあると御社の売上も増加するか。

A-2 売上は膨らむが、加工賃が変わらなければ利益率は下がる。

Q-3 2026年度計画について、機械化による利益への影響はあるか。
また、今期での利益率の改善は見込まれるか。

A-3 初年度から機械化の効果を発揮することは難しい。また、導入当初は立ち上げが簡単ではないことに加え、人件費の上り幅が機械化の効果を上回る可能性もある。そのため利益率の改善も難しい。2027年度以降に効果が出てくると見込む。

Q-4 リスク要因で調達の問題を挙げられたが、今年度は対策等の見通しがついているか。

A-4 調達は今まさに交渉中。しかし、全く仕入価格を変えずにビジネスを続けることは不可能である。お客様と交渉を重ね、どれだけ転嫁できるかが重要になる。

Q-5 2026年度計画について、リスク要因の織り込みはあるか。

A-5 現段階ではなんとか対応できているため、リスクとして織り込んでいるものはないが、今後影響が出てくる可能性はある。

Q-6 中期経営計画の発表に際して、車載向け、スマホ向けをどう伸ばすかのヒントはあるか。

A-6 今年も3か年中期計画を策定する。基本的な方針としては、アミューズメント以外の売上は必ず伸ばすことを目標にしている。その中でも、車載については十分先まで見据えて動けている。スマホについても、大きく伸びることはないと思込むものの、毎年数パーセントでも伸ばしていきたい。

※本資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、現在入手可能な情報による当社の判断に基づく将来の予測であり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。さまざまな潜在的リスクや不確定要素を含んでおり、実際の業績はさまざまな重要な要素により、記載された見通しと大きく異なる可能性もあり、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。



THANK YOU !

<https://www.hosiden.com/>

